

伸・魅力通信

「根っこ」「土台」「出口の姿」を確認した幼小中一貫教育研修会(その2)

幼小中一貫教育研修会の後半は、「学びづくり」「心づくり」「体づくり」「生き方」「特別支援」「授業づくり」の6つのカリキュラム別に合計20の部会に分かれて分散会を行いました。



体づくり

- 「プレーヤーズファースト」のためにどのようなことを取り組んでいますか。→チームや自分に足りないことを考えさせ、メニューなどを自分たちでも考える場と機会を設けています。
- 体を動かすと「楽しい」「HAPPY」という思いを持って下校させられるようにしたいです。
- 各園各校で実施しているソーシャルディスタンスの遊びや活動を共有したいです。
- 「体を動かすことが好きな子」へと向かう際に、課題となっていることを学園の中で共通理解しておくことが大切だと思います。

学びづくり

- 「話す」「聞く」のレベルを伸ばせるように支援しています。「まず」「次に」「それから」と、順序立てて話せるように指導しました。これにより、頭で組み立てて話せる子どもが増えました。しかし、子どもがこの型を大切にすることを意識しすぎてしまい、考えないで「いいと思います」と言うてしまうことが課題です。
- 「学ぶことが楽しい」という学びの土台を作ることが必要だと思っています。そのためには、「なぜ聞くことが大切なのか」や「話し方の型」などを指導していくことが大切だと思っています。



授業づくり

- 「なぜ、聞くことが大切なの？」と、子どもに繰り返し問いかけて聞くことを徹底させました。子供の成長と確かな手ごたえを感じました。
- 常に学習課題(学習問題)を意識して、図工や音楽、道徳でも設定するようにしました。
- ルーブリックを作って、目標を共有することで、校内でのズレは少なくなりました。このルーブリックを有効に活用する方法を考えていくことが課題だと思っています。